

<仲良しまちあるき>

四人の友達は自分のまちを歩くことが大好きでした。すばやくいろんな面白いところを見つけるのが得意の男の子は“風”というニックネームです。まちをいつも空から眺めるように話す女の子は“つばめ”と言われています。そして、地下のお店とか通路に詳しい男の子は“モグラ”と呼ばれ、いろんな角度で町を見ることが出来る女の子をみんなは“トンボ”と呼んでいます。風、つばめ、モグラ、トンボの4人はいつも一緒にまちのなかをうろうろするのが好きでした。

さて、よく晴れた初夏のある日、学校から帰った4人はいつもの公園に集まり今日はどちらの方向に行こうか皆で話し合っています。市役所の周りは先日探険したので、今日は商店街の方に向かい昔からある色々な建物のある方に行ってみようと思いましたが、

さっそく、つばめが大きい神社を見つけました。このまちには古い建物や道などが結構残っているとこでした。風はまっしぐらにその神社に駆けつけ、残りの3人もやっと追いつきました。「神社とかお寺は涼しいよなあ！」と風。「森があるところは気持ちいいのよ」とつばめ。モグラはハーハーいいながら「でもあの南側にあるマンションが太陽光線と風の通るのをじゃましてないかい？」トンボは眼をぐりぐりさせながら「わたしたちのまちってづいぶんいろんな高さの建物があって、デコボコしてない？」「私の目からするとそれがよーくわかるのよ！」とつばめがため息をつきながらいいました。風はまだまだ疲れていません。「それじゃー、神社の裏山に登ってこのまちを上から見てみないか？」モグラ以外は賛成ですが、モグラはたまにはいいか、と自分に言い聞かせました。

「高いところから遠くを見ると、どうして気持ちいいんだろう？」と風。「だいたい景色や風景のいいところって、遠くを見通せるところが多いわよね。」とトンボ。「そうそう。でも飛行機から見た地上のまちって皆同じように見えておもしろくもなんともないわよね。」とつばめ。モグラはなんとなくそわそわして「しかし、地下の世界もけっこう刺激的だぜ！ところで、景色や風景がいいとか悪いとか、気分が良くなる風景とかそうではない風景とかはそれぞれの人の感じ方で、どれがいいとか悪いとかは決められないんじゃない？」

風はすぐ行動するタイプです。「4人でまちの中を歩きながら、いいなーとか、変だよなーとか、おもしろいよなーとか、気になる風景や景色を自分のデジカメで写真にとって、その写真を見くらべながらみんなで話し合わないかい？」「でもただそれだけだとあとで整理が大変だから、こういうふうに決めてからやりましょうよ」と賢いトンボが提案しました。「まず、十字を書きます。上下は上が気持ちいいところ、下が気持ち悪いところ。そして、左右は右が自然な感じで、左が人工的な感じ。どう？わかる？」考えていたつばめが「それぞれの場所に自分がとった写真を、そのとったときの気持ちに合ったところに張りつけるのよね。」「地下もいいのかい？」とモグラ。「人間が行けるところなら、どこでもOKだよ！」「でははじめましょう！」とみんなで言いました。

3時間ほどたってから、みんなはまたさっきの神社に戻ってきました。そしてみんなで撮ってきた写真を張り付けて、それぞれひとりひとりがまちをどう見ているかを話し合いました。そしてみんなが気づいたことは、意外とみんなそれぞればらばらな意見が出ると思ったら、けっこう同じ感じ方をしていることにも気づきました。いろんな本を読んでいるトンボはみんなに教えるように言いました。「みなそれぞれひとりひとりの心の中で感じたり思っていたりするのを景色とか風景と言うのよ！そして、それらが同じ思いとか共通な感じ方になって目の前にあらわれてくるものが“景観”（けいかん）と言うんですって。」「という、きょうは景観まちあるきをしたんだね！」とモグラ。みんななるほどと言いました。